

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300247		
法人名	社会福祉法人 夏秀会		
事業所名	虹の丘グループホーム		
所在地	三重県鈴鹿市稲生町字北野5545番地		
自己評価作成日	令和3年 1月 21日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosyoCd=2490300247-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 3 年 2 月 8 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面に関して認知症に精通した主治医との連携を取りながら支援に関するアドバイス、それぞれの症状に対しての相談が随時できる環境にある。事業所と主治医、薬剤師が同時に閲覧できるサイトにリアルタイムで情報が共有できる。夜間も緊急時には主治医と連絡が取れる体制である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊勢鉄道鈴鹿サーキット稲生駅から徒歩で15分の便利の良い場所にある開所二年目の事業所である。すべての人が“自分の思いを大切に、自分らしく生活できる”ことを表現するため、理念の「人として生きる」とした。管理者・職員は、理念を共有しながら理念の具体化に向け努力をしている。管理者・職員は、協力医・看護師・薬剤師・家族がパソコンでいつでも情報を共有出来るようになっている。管理者・職員は、民生委員・協力医・看護師・薬剤師・行政・関係者・家族等の理解と協力を得ながら、利用者が豊かで安心して生活が出来る事業所を目指し支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	身体拘束を行わないよう取り組んでいる。玄関にも掲示し意識付けている。	理念「人として生きる」が玄関に掲示してある。管理者・職員は理念を共有しながら、いつも明るく笑顔の絶えない事業所を目指して、利用者の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ地域の民生委員さん等に協力依頼をしている。認知症カフェを実践しているもまだ来所されていないため施設の存在をもう少し知って頂けるようにする。	地域の方々の理解と交流を願い、虹の丘カフェ(毎週水曜日)開催についてのポスティングをしている。また、稲生高校福祉学部の生徒がボランティアとして事業所を訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民と話し合いをして悩み等聞くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため実施できていない。	コロナ禍で開催していない。今後、自治会・民生委員・老人会・行政・家族に働きかけ、開催への取り組みを話し合っている。	運営推進会議の開催について、自治会・民生委員・老人会・地域の団体・行政・家族と相談し、運営推進会議を開催することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	人材難で困っている等の話をし助言を求めている。	鈴鹿、亀山広域連合と人材確保についての相談をした。市担当者と電話やメールで情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にも掲示し常に心掛けている。	玄関に身体拘束は行いませんと掲示してある。玄関の施錠はしていない。	身体拘束等の適正化のための委員会の開催、身体拘束適正化のための定期的な職員研修の実施を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の家族とも常に連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リモート研修に参加して知識を広めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはしっかりと説明し不明な点がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の家族と連絡を取り反映させている。	コロナ禍で面会は出来ないが、利用者家族とラインで繋がっており、利用者の状況を画像でリアルタイムで報告をしている。ラインで家族の喜びの声や意見提案が送られてくる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で忌憚のない意見をもらっている。提案されたことが実践可能な場合はすぐ対応するようにしている。	管理者は常に職員が話し易い環境づくりを心掛けている。職員会議や業務の中で意見や要望を聞き、事業所の運営や利用者支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力に報いるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍なので対面の研修はできないのでリモート研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鈴鹿市内(主に)の施設との情報交換をし切磋琢磨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情など見ながらしっかりと寄り添い困り事や不安解消のため努め話しやすいように居室で話を聞いたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から利用者の生活歴や家族の要望を聞くようにしている。面会時にも相談を受けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で必要なアドバイスをしたり制度の説明等を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者という立場ではなく共に生活し支えあう関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から情報を頂いたり施設での現状を伝えたり、共有しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が薄くなっているが可能な限り対応に努めている。	家族と買い物に行く利用者や、家族が墓参りに連れて行く利用者がある。また、年賀状を出す利用者の手伝いをして、職員は関係継続を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係など把握し座す席など気を付けている。コミュニケーションがスムーズに行くようスタッフが間に入ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの意向を把握し可能な限りサービスに反映できるように心がけている。	日常の支援の中から利用者の思いや意向を把握している。把握した思いや意向は申し送りノートに記入し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し職員同士情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い意見を出し合っている。	3ヶ月毎にモニタリングを実施している。協力医・職員・看護師・家族の意見を参考に6ヶ月毎に計画の見直しを行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの記録に分かりやすく記入し職員間で共有できるよう申し送りノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様な取り組みができるよう法人で必要に応じた検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り活用できるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にし変化等あれば Medikesステーションにて報告相談している。	利用者全員が事業所の協力医から月に1回の訪問診療を受けている。24時間対応ができる協力医である。パソコンで協力医・看護師・薬剤師・職員・家族と繋がっており、いつでも情報のやり取りが出来る体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1、看護師が来た際体重測定を行い何かある時はその都度相談し受診する時のアドバイスをもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は日々の暮らしの様子も伝え利用者が混乱しないように支援している。電話で家族に病状を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に聞き取り行えていない状態である。チームで取り組めるようにカンファレンス等で話し合いを検討している。	入居時、家族に重度化や終末期に向けた指針を説明をしている。看取りの経験はないが、協力医・看護師・管理者・家族が話し合い、看取りが出来る体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや申し合わせは行っているが定期的に訓練などは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作っていないため訓練等行っていない。	消防計画は消防署に提出しているが、防災訓練を実施していない。食料と水の備蓄はしてある。昼夜、アルソックの警備保障により、総合防犯対策が充実している。	年に2回、消防署の協力で火災・震災等の防災訓練の実施と、職員の目に付きやすい場所に、避難経路図、各担当(通報係・消火係・誘導係)の掲示をしておく事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態に合わせ声掛けを行いプライバシーの保護に努めている。	呼称は苗字にさん付けで呼んでおり、同姓の利用者は名前にさん付けで呼んでいる。常に優しい声掛けや丁寧な言葉遣い等で利用者のプライバシーを損なわないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り利用者様が選択できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムに支障がないよう本人の状態なども把握し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後など化粧水にてスキンケア行ったり髪の設定や衣類の身だしなみにも気を付け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おぼんを並べたり料理の味見をして頂いたり、配膳・下膳できる方にはお願いしている。季節の物を提供したり誕生日には事前に食べたいのを聞き提供している。	職員が、食材購入・献立・調理をしている。利用者は職員の手作りによる季節感のある食事を楽しんでいる。下ごしらえや食器洗い、下膳を手伝う利用者がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスがくずれないよう管理栄養士に相談したり一人ひとりの状態に合わせて刻んだり、水分補給には好みのコーヒーや入浴後スポーツ飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや必要ならば介助を行い口腔ケアを行っている。かかりつけ医の歯医者があり何かあれば受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ行った時間を記録しパターンの把握に努めている。記録も活用し極力失敗しないよう声掛け行い誘導している。	布パンツ6名、布パンツにパット使用1名、リハビリパンツ2名で、全員がトイレで排泄をしている。排泄記録表を使用し、一人ひとりに合った対応や支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤が必要な方もいるが牛乳・ヨーグルト等提供し水分摂取量の管理、入浴時などに腹部マッサージ行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数は臨機応変に対応できるが入浴時間帯は日中に限られ、朝・夜は対応できる職員を確保できないため普段は実施していない。	週に3回、午後に入浴をしており、菖蒲湯やゆず湯で季節感を感じる入浴を楽しんでいる。浴槽補助台の活用で、全員がスムーズで安全に浴槽に浸かれるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに応じて苦痛のないよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を活用し一人使用している薬の理解に努めている。状態の変化にも気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人に応じて体調に合わせて一緒に行いながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り対応している。	事業所周辺の散歩をしている。元日に初日の出気分を味わってもらう為白子港に出掛け、帰りに魚市場で鰯の買い物も楽しめた。外食で回転ずしにも出掛けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いくらかお預かりし受診や買い物の際そこからお支払いしている。日常的にお金を使用することは無く代行で買って来たりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話をかけたい時はご家族様に確認し支障がない場合のみ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度等、温度計を確認しながら調整している。	玄関には利用者が作成した作品が置いてある。居間兼食堂は採光が良く、明るくて広く居心地の良い空間である。壁には四日市市の画伯小林藤四郎の絵画がリビングの一角を華やかに演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれお好きな場所で過ごして頂けるよう事故やトラブルがないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に合わせて家族と相談しながら行っている。	エアコン・ベット・整理棚が設置してある。衣装ケースやラック掛け等使い慣れた家具が置いてあり、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りできることは行って頂くよう見守り行い事故の起こらないように配慮している。		